

“Think tanks in politically embedded knowledge regimes: does the “revolving door” matter in China?”

「政治に埋め込まれた知識体制におけるシンクタンク：中国における「リボルビング・ドア」は問題となるのか？」

Xufeng Zhu

Abstract

本論文では、官僚制における意思決定者とその専門的な顧問との間の行政的及び個人的ネットワークに政治権力が深く埋め込まれている「政治に埋め込まれた知識体制」を概念化する。その特色を明らかにするため、中国のシンクタンクにおけるリボルビング・ドアの影響を評価する。その結果、中国において、リボルビング・ドアはシンクタンクの影響及び収益にほとんど寄与していないことが実証的に明らかになった。さらに、リボルビング・ドアはシンクタンクの研究員が構築する個人的な社会的ネットワークに対して有意な負の効果がある。また、回帰分析の結果の頑健性を示すために、複合型解析や傾向スコアマッチングを実施した。

Points for practitioners

「リボルビング・ドア」は常に、アメリカのシンクタンクにおける成功の本質的な要因とみなされてきた。現在では、リボルビング・ドアは国際的なシンクタンクにとって、支配的な採用戦略となっている。とりわけ、中国政府及び研究界は、シンクタンクの成長に資するリボルビング・ドアの構造を採用している。それにもかかわらず、中国のシンクタンクに関するリボルビング・ドアの明確な影響を評価するための体系的な実証研究がなされてこなかった。本論文の実証研究の結果は、アメリカのシンクタンクの成長の経験は、異なる知識体制の国々に適用した場合には、効果がないかもしれないということを明らかにしている。